

熊本を漫画と文化の聖地に



NPO法人 グランド12
代表
松江 慎太郎さん(中央)
発起人: 松枝 清美さん(左)、三浦 幸博さん(右)



少年マンガ『ONE PIECE』の尾田栄一郎や『ケロロ軍曹』の吉崎観音、少女マンガ『あさりちゃん』の室山まゆみなど、全国的に見ても多くの漫画家を輩出している熊本。そんな熊本の魅力を活かした活動を行っているのがNPO法人グランド12です。「少年、少女漫画のトップと言っている漫画家が出ている熊本には素晴らしい漫画文化がありますこれを発信したい」ともつたない」とグランド12代表の松江慎太郎さんは言います。グランド12の活動が始まったのは5年前。熊本に漫画文化があることをもっと多くの人に知ってもらいたいと思い、熊本市の辛島公園を「ルフィ公園」(漫画『ONE PIECE』主人公の名前)にしようと考えました。そこで、発起人である三浦さんや松枝さんたちと、署名活動を開始。今では、その他にも「漫画をはじめとする熊本の文化が産業となり、文化を中心としてまちが活性化すること」を目標とした活動は、定期的に熊本ゆかりの漫画を集めたまんが図書館を開催したり、麦わら基金を作り

PLOFILE

松江 慎太郎さん
熊本市出身。NPO法人「グランド12」代表。飲食店経営のほか、イベント企画会社なども経営している。「グランド12」の由来はマンガ『ONE PIECE』に登場する「グランドライン」と、「ONE」=1、「PIECE」=Vサイン=2 から。

児童福祉施設へのアニメDVDの寄付をするなど、少しずつ広がっています。昨年、一昨年は熊本市中心部で、アニメとポップカルチャーの祭典「くまフェス」を開催。アニメ主題歌のライブやコスプレ大会、声優さんのトークショーなどを行い、県の内外から多くのアニメ好き・漫画好きが集まりました。平成26年冬にも「くまフェス」を開催予定です。さらに現在は新しい企画の真っ最中。「まずはASEANに向けて活動したいですね」と語るグランド12が、今後どんな展開で熊本の元気と文化を発信していくのかこれから楽しみです。

心のバリアフリーを目指したい



NPO法人オハイエくまもと
代表
入部 祥子さん



知的障害のある人達と共に音楽を楽しむ『オハイエくまもと』。音楽を通じて心のバリアをはずし、障がいのあるなしにかかわらず、当たり前前に暮らせる社会を目指しています。代表の入部祥子さんは「初めは目も合わさなかった人が、どんどん積極的になるんです。音楽ってすごい！」と微笑みます。その活動の一つが『とっておきの音楽祭』の開催です。下通や上通など、まちなかの各所で、プロもアマチュアも一緒に演奏を行います。観客を巻き込み、一緒に楽しむイベントは、毎回大好評です。「手探りで始めたイベントですが、続けてこられたのは多くの人たちからもう喜びと感動があったから」と入部さんは言います。平成26年1月、オハイエくまもとは、くまもと県民文化賞を受賞しました。「これを機に、障がい者、健常者と言わない、心のバリアフリーにつながればいいですね」と入部さん。平成26年の音楽祭は3月23日。「障がい者、健常者の枠を超えた心あたたまる音楽を、楽しみにきてください！」。

PLOFILE

熊本県人吉市生まれ、熊本市中央区在住。菊地中央病院小児科医。『オハイエくまもと』は『オハイエ』発祥の地、仙台市との縁で2009年設立。「オハヨー」と「イエーツ!」を組み合わせ「オハイエ」と名付けられた。

触れ合いの中から音楽の魅力
田中レイ子
今春5回目の音楽祭を行う「オハイエくまもと」。個性重視の大イベントだ。代表の入部祥子さんは、「障がいのあるなしは全く関係ないんです。音楽を愛すること、仲間意識が広がります」と語る。メンバーは、みんなで愉しみたくてオハイエに集う。だからこそ「とっておきの音楽祭」では、触れ合いの中で音楽の魅力が誕生するのだ。音楽は、人とまちな輪を繋いでいるのだと思った。

まちば もりあげ 隊

校区を越えて、いろいろな取り組みで「まちを元気に！」する元気な人たちが、中央区にはたくさんいます。ユニークなアイデアで、まちを盛り上げている人々をご紹介します！

まちのわ 見習い編集員の目